

2) 情報活用能力の育成要素の構造化と到達目標の設定

前に述べたように、「基礎的資質」は、これからの児童・生徒にとって極めて重要となっており、育成にあたっては、「どの部分をどれだけどのように育成すべきか」を、発達段階に応じて十分に検討する必要がある。

本研究では、まず、最終到達目標を、来たるべき高度情報社会を想定して「高度情報社会に対応できる心豊かで創造的な人間の育成」においた。

次に、これを成立させる「情報の処理と創造力の形成」、「情報化社会の認識と情報モラルの確立」、「情報手段の理解と操作能力の習得」の3つの目標を設定し、これを上位目標とした。

さらに、これらを構成する要素のうち、「収集」、「選択」、「処理」、「創造」、「伝達」、「情報化社会の特質」、「情報化の進展がもたらす影響」、「情報の重要性」、「情報に対する責任」、「情報手段の特徴」、「情報手段の基本的操作」から、上位目標を支える12の下位目標を設定した。(図-2)

これらの目標を具現化するための手だてや学習課題、評価などについては、児童・生徒の生活経験や情報に関する実態調査等を踏まえながら検討を加えることとした。

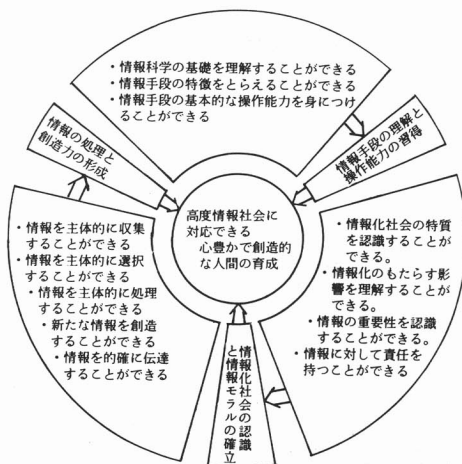


図-2 情報活用能力育成目標の構造化

2. 研究計画の概要

本研究は、「情報活用能力の育成に関する研究」として昭和63年2月から2年計画によりスタートしたが、本年度(第1年次)は、情報活用能力に関する理論研究と情報活用に関する基礎調査を行うとともに、2年次へ向けての評定尺度の作成と実践モデルの作成、並びにその試行・検証を実施することとした。図-3に、その概要を示す。

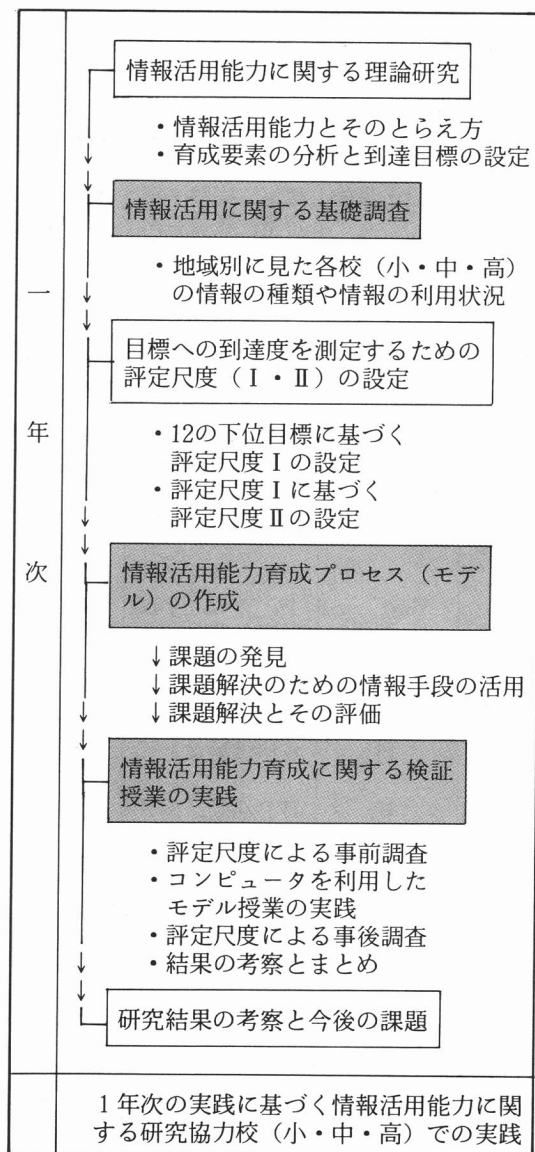


図-3 研究計画の概要